

「平成30年度学生生活実態調査（第7回大学院生活実態調査）」のフィードバックにかかるフォローアップについて

この表は平成30年11月に実施した第7回大学院生生活実態調査の結果、「問題がある」、「改善の必要がある」、あるいは「他より優れている」と判断された事項を教育部ごとにとりまとめ、その対応計画とその計画についての進捗状況を示したものです。これら事項につきましては定期的に進捗状況を更新していく予定ですので、学生、教職員のみならず、ご関係者の方にはお気づきの点や改善に係るアイデア等ございましたら、下記までお知らせくださいますよう、お願いいたします。

連絡先：徳島大学学生支援課
E-mail：kyseikatuk@tokushima-u.ac.jp

部局名	調査結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実行の進捗状況等 (2020.3月HP公開内容)	対応計画実行の進捗状況等 (左記のフォローアップ) (2021.3月HP公開内容)	対応計画実行の進捗状況等 (左記のフォローアップ)
	事項（問題点や優れた点）	対応計画等			
総合科学教育部	アンケートの回収率が低い。	指導教員に配布する際に「必ず回答するようにご指導ください」と念を押す。締め切りの1週間前にリマインドする。	アンケート調査が実施される際には左記のとおり対応する予定。	コース学生委員を通して対応しているが、今後も継続的に取り組みたい。	コース学生委員を通して対応しているが、今後も継続的に取り組みたい。
	経済的に困難でアルバイトを行う学生が多い。	授業料免除や給付型奨学金の拡充について国に働き掛ける。	全学的にご対応をお願いしたい。	全学として動いていただいている。	国の事業として、新たに学生支援緊急給付金給付事業が創設された。また、コロナ禍の中で徳島大学緊急生活支援金制度が始まった。
	悩み事や身体の不調を抱える学生の相談先の上位が友人や家族である。	普段から掲示などで総合相談部門の利用を呼び掛ける。	学務係前の掲示板に総合相談部門の案内を掲示した。	ガイダンス・掲示板で対応している。今後も継続的に取り組みたい。	ガイダンス・掲示板で対応している。
	パワハラ・アカハラを受けた学生が存在する。	普段から掲示などで総合相談部門の利用を呼び掛ける。	学務係前の掲示板に総合相談部門の案内を掲示した。	ガイダンス・掲示板で対応している。今後も継続的に取り組みたい。	ガイダンス・掲示板で対応している。
	総合科学教育部の教育理念について51%が知らない・よく知らないと回答している。	パンフレットへの記載、ガイダンスの際の説明などで教育理念を強調する。	広報委員会にて、総合科学部ウェブページのリニューアルを計画中。	リニューアル取り組み中。	総合科学部ウェブページへ取り込み済みである。
	研究指導時間は増加傾向。	各指導教員に対して、引き続ききめ細かい指導をお願いする。	教育部の会議の際にお願いすることとしている。	教育部の会議において、教務入試委員より呼びかけていただいている。今後も継続的に取り組みたい。	今後も継続的に取り組みたい。
	指導内容と進め方については91%が満足・どちらかと言えば満足。	各指導教員に対して、引き続ききめ細かい指導をお願いする。	教育部の会議の際にお願いすることとしている。	教育部の会議において、教務入試委員より呼びかけていただいている。今後も継続的に取り組みたい。	今後も継続的に取り組みたい。
	大学院にふさわしいレベルの教育が行われていると回答した学生が97%。	各指導教員に対して、引き続ききめ細かい指導をお願いする。	教育部の会議の際にお願いすることとしている。	教育部の会議において、教務入試委員より呼びかけていただいている。今後も継続的に取り組みたい。	今後も継続的に取り組みたい。
	指導教員とのコミュニケーションが取れていると回答した学生が90%。	各指導教員に対して、引き続ききめ細かい指導をお願いする。	教育部の会議の際にお願いすることとしている。	教育部の会議において、教務入試委員より呼びかけていただいている。今後も継続的に取り組みたい。	今後も継続的に取り組みたい。
研究設備・研究費用・研究時間に対する不満の声が多い。	研究設備については、具体的に何が不足しているのかを調査する。研究費用については、指導教員に配分された大学院生の教育研究費について適切に使用するように、各指導教員をお願いする。それでも不足するようなら、学内外の競争的資金に応募するように指導してもらう。	2月末に予定している学部長と大学院生の懇談会の席上にて意見聴取する予定。	意見聴取は行っているが、指導教員への指導のお願いを、もう少し強化していきたい。	意見聴取は行っているが、指導教員への指導のお願いを、もう少し強化していきたい。	

「平成30年度学生生活実態調査（第7回大学院生活実態調査）」のフィードバックにかかるフォローアップについて

部局名	調査結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実行の進捗状況等 (2020.3月HP公開内容)	対応計画実行の進捗状況等 (左記のフォローアップ) (2021.3月HP公開内容)	対応計画実行の進捗状況等 (左記のフォローアップ)
	事項（問題点や優れた点）	対応計画等			
総合科学教育部	海外経験の少ない者が多い。	学部改組により、学部段階での留学が促進されているため、今後は海外経験者が増え、語学力も向上することが期待される。	新学期のガイダンス等の機会に留学制度の説明を引き続き行う。	対応している。今後も継続的に取り組みたい。	新型コロナウイルスの影響により、学生が海外渡航ができない状況である。
	前期課程の57%が就職希望だが、キャリア支援室を利用したことのない者が77%にのぼる。	キャリア支援室の利用を呼び掛ける。	新学期のガイダンス等の機会にキャリア相談室についての説明を引き続き行う。	対応している。今後も継続的に取り組みたい。	対応している。今後も継続的に取り組みたい。
医科学教育部 栄養生命科学教育部 保健科学教育部	1割程度の学生が、アカハラまたはセクハラを受けたと回答している。また、大学へセクハラについて相談したが、改善されなかったとの意見もあり、決して看過できない問題である。	学生が受けたハラスメントについて、もみ消されることなく、対処・改善していくためには、第三者機関へ学生の対応及び改善等の委託を含め、各教育部のみならず大学組織の枠を越えた取り組みが必要であり、改善へ向けた対応等を検討する。	医学部学生委員会で検討した結果、各教育部での対応では問題解決が難しいため、全学学生委員会などへ改善へ向けた対応を要望することを継続している。幸いにもハラスメントに関する事例はなかった。	各教育部での対応では問題解決が難しいため、全学学生委員会などへ改善へ向けた対応を要望することを継続している。幸いにもハラスメントに関する事例はなかった。	各教育部での対応では問題解決が難しいため、全学学生委員会などに改善に向けた対応を要望することを継続して検討した。ハラスメントに関する事例はなかった。
	心身に何らかの異常を感じている学生が半分近くいるが、キャンパスライフ健康支援センターの利用率が悪い。また、約1割の学生が誰にも相談しないでいる。	キャンパスライフ健康支援センターの有効利用を促す。	指導教員を始めとする、キャンパスライフ健康支援センターの有効利用を促すように、キャンパスライフ健康支援センター及び学務課と連携し、働きかけている。	キャンパスライフ健康支援センターの活動に学生係が人的協力を惜しまず働きかけて、効率的な利用に貢献した。	キャンパスライフ健康支援センターの活動に学生係が人的協力を惜しまず働きかけ、ワクチン接種の機会などにおいても積極的に協力して効率的な利用に貢献した。
	6割以上の学生が就職を希望しているが、キャリア支援室を利用したことのない学生が、7割以上いる。	キャリア支援室（蔵本分室）の有効利用を促す。	指導教員を始めとする、キャリア支援室の有効利用を促すように、キャリア支援室及び学務課と連携し、働きかけている。	キャリア支援室に就職進路情報を提供してキャリア支援室の業務に貢献し、就職情報の広報等の活動の充実の一翼を担った。	キャリア支援室に就職進路情報を提供してキャリア支援室の業務に貢献した。就職情報の広報等の活動の充実に寄与した。
	博士後期課程のアンケート回収率が悪く、4割弱となっている。	特に、常に通学していない（社会人）大学院生の回収方法の工夫、また、アンケート質問項目の簡略化等を含め、抜本的な改善へ向けた対応等を検討する。	社会人大学院生等が、容易に回答できる仕組み（WEB回答方式など）の構築やアンケート質問項目の簡素化は、各教育部での対応では難しいため、全学学生委員会などへ改善へ向けた対応を要望することとした。	各教育部での対応では回収率の向上は難しいため、全学学生委員会などへ改善へ向けた対応を要望する検討を継続している。	各教育部での対応では回収率の向上は難しいため、全学学生委員会などに改善に向けた対応を要望することなどの検討を継続して行った。
口腔科学教育部	研究指導体制下でのハラスメントは減少傾向にあるが依然3%は経験があった。	FD活動などを通じての予防と相談支援体制を整備する。	ハラスメント予防に向けたFDの開催を予定しており、各部局でも複数教員による指導体制で防止に努めている。	複数教員による面談を前期と後期に実施し、研究面以外の状況についても把握に努めている。	複数教員による面談を前期と後期に実施した。さらに効果を得るために、クラス担任制度、メンター制度の見直しに着手した。
	悩み、不安を持っている学生の相談相手は家族、友人がもっとも多かった。	メンター制度の充実を図る。	一部ではメンター制度の活用はあるが、さらなる充実に努める。	メンター制度の活用については、現状では差があり、さらなる充実に努める。	学生委員会で、クラス担任制度、メンター制度の見直しに着手した。
	研究指導、研究体制についてはおおむね満足している結果であった。	複数の教員による指導体制を推し進める。	複数教員指導体制を継続する。	複数教員指導体制を継続する。	複数教員指導体制を継続できている。
	国際的能力に不安を持っている学生が多い。	国際化に対応する教育カリキュラムの多様化を図る。	研究会等を通して留学生との交流を図っている。	留学生も参加している研究成果発表会を今後も継続する。	留学生の英語による学位審査への参加を促している。
	社会人大学院生が増加傾向にあり、一般大学院生と生活実態は異なる。	社会人大学院生と一般大学院生を分けて生活実態を分析する。	本年度については未分析であり、次年度で実行する。	どのような分析を行うか検討中である。	社会人と一般学生を分けて解析することを検討している。

「平成30年度学生生活実態調査（第7回大学院生活実態調査）」のフィードバックにかかるフォローアップについて

部局名	調査結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実行の進捗状況等 (2020.3月HP公開内容)	対応計画実行の進捗状況等 (左記のフォローアップ) (2021.3月HP公開内容)	対応計画実行の進捗状況等 (左記のフォローアップ)
	事項（問題点や優れた点）	対応計画等			
薬科学教育部	教育課程の現状には概ね学生は満足している(95%以上)。	引き続き学生との対話等を通じて、ニーズの把握に努める。	薬科学教育部修了予定者と教育部長との懇談会の開催や「大学院教育に関するアンケート」調査の実施により、教育課程に対する満足度等のニーズ把握に努めた。	薬科学教育部修了予定者と教育部長との懇談会を通じて、学生の意見・要望の把握に努めた。今後も可能な限り、学生のニーズ把握のための調査等を行う予定である。	薬科学教育部修了予定者と教育部長との懇談会を通じて、学生の意見・要望の把握に努めた。今後も可能な限り、学生のニーズ把握のための調査等を行う予定である。
	半分以上の学生が何らかの心身の異常を感じているが、一方で保健管理・総合相談センターの利用が極めて低く、誰にも相談しない学生が約3割いる。	心身の健康維持管理を目的としたキャンパスライフ健康支援センター（旧；保健管理・総合相談センター）の有効利用を促す。	心身の不調が見受けられる学生に対して、指導教員、キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門、保護者、学務系の連携のもとに、迅速で適切な対応を心がけた。	新型コロナウイルス感染症対応により、体調観察も含め、研究室単位で学生の状況把握に努めている。引き続き、心身の不調が見受けられる学生に対して、指導教員、キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門、保護者、学務係において連携することとしている。	心身の不調が見受けられる学生に対して、指導教員がどうすればよいかなどを、キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門長を講師に薬科学教育部でFD研修会を行った。
	依然として高い割合（36%）で学生が外国語修得の努力をしていない。	英語力強化の取り組みとして開講している薬学英语特論（必修）で、自己学習促進に繋がる授業改善に努める。	「薬学英语特論」において、複数の外国人教員による授業を行い、英語学習への意欲の増進を図った。また、蔵本地区での外国人講師の講演会の案内を大学院生に積極的に行っていくこととした。	引き続き、「薬学英语特論」において、外国人教員による授業を行い、英語学習への意欲の増進を図る予定である。	引き続き、「薬学英语特論」において、外国人教員による授業を行い、英語学習への意欲の増進を図る予定である。また、大学院生に薬科学教育部修了予定者と教育部長との懇談会を通じて、「薬学英语特論」についてヒアリングを行い、おむね講義内容について意義があるとの回答を得た。
	国際学会での発表経験がある学生数が回復した。	国際学会への発表を経済的に支援する取り組みを継続する。	引き続き、海外での教育・研究活動支援の取り組みとして、国際学会での発表者に対して経済的支援を行った。	国際学会への発表を経済的に支援する取り組みを継続しているが、新型コロナウイルス感染症対応により、現時点では実績なしである。	オンラインでの国際学会参加に対しても、経済的に支援を行い、実績を積んでいる。
	アンケート回収方法の工夫により、回収率が向上(90%)し、アンケート結果は全体を反映しているものと推察される。	高い回収率を維持する。	引き続き、高い回収率を維持するため、研究室単位での取りまとめ、社会人へのアンケート回収に配慮した方法で実施することとした。	新型コロナウイルス感染症対応により、回収方法について今後検討予定である。可能であれば、研究室単位での取りまとめ、社会人へのアンケート回収に配慮した方法で実施予定である。	新型コロナウイルス感染症対応により、回収方法をWEBとした。研究室単位で入力への声かけを行うなど対応を検討する。また、社会人へのアンケート回収についても検討予定であるが、全学学生委員会でも実施方法などについて取組を要望したい。

「平成30年度学生生活実態調査（第7回大学院生活実態調査）」のフィードバックにかかるフォローアップについて

部局名	調査結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実行の進捗状況等 (2020.3月HP公開内容)	対応計画実行の進捗状況等 (左記のフォローアップ) (2021.3月HP公開内容)	対応計画実行の進捗状況等 (左記のフォローアップ)
	事項（問題点や優れた点）	対応計画等			
先端技術科学教育部 知的力学システム工学専攻 (建設創造システム工学コース)	博士後期課程の学生の国際会議での発表経験者が少ない	指導教員に対し、博士後期課程学生の国際会議発表に関する実態の聞き取りを行い、原因を検討する。	社会人の博士後期課程の学生が多いため、国際会議で発表させる機会を設けることが難しい。通常の博士後期課程の学生に関しては、プレゼンテーション技法の単位取得（国際会議での発表が条件）を促している等の意見があった。	業務の都合で国際会議に出席できない社会人学生については、オンライン開催の国際会議等を紹介し、発表の機会を設ける。	令和3年度は、ほとんどの国際会議がオンライン開催となっていた。
	博士前期課程学生のキャリア支援室の利用が少ない。	学生に対し、利用実態に関する聞き取りを行い、原因を検討する。	博士前期課程の学生に対し聞き取り調査を実施したところ、①リクナビ・マイナビ等のサービスを利用している、②コースや美士利会（同窓会）が実施する合説等を利用しているとの意見が大半であった。また③学部で同級生の就職活動を見ておりノウハウがあるとの意見もあった。	コースで実施するキャリア支援行事において、キャリア支援室の利用案内を実施する。	令和3年度は、博士前期課程の在籍学生が1名のみであったこともあり、利用案内の必要性が生じなかった。
先端技術科学教育部 知的力学システム工学専攻 (機械創造システム工学コース)	多くの学生が自転車通学という現状から（質問13）、K棟周辺の駐輪場が混み合い、指定場所からはみ出した駐輪が、歩行者の妨げになっている。	駐輪場に加え、駐輪方法（整列、スペースの取り方など）についてもガイダンスで指導を行う。また、事故、健康の点からも歩行通学を励行する。	次年度ガイダンスにおける指導の徹底、学生意識の改革について検討・準備中。	令和2年度の新入生ガイダンスで駐輪方法、マナーの向上について説明した。	実施済み。
	学生相談室の対応については概ね満足している一方で、悩み事がある学生で学生相談室を利用する者は非常に少なく、特に前期課程では1%程度に過ぎない（質問28、37）。また、就職に関して大学に要望している内容はほぼキャリア支援室で提供されているが、約半数がキャリア支援室を利用したことがないと回答している（質問79、80）。	大学院入学時のガイダンスでキャリア支援室や学生相談室などの対応内容を周知させ、利用を促進する。	次年度ガイダンスにおける本事項の説明スライドを作成中。	令和2年度の新入生ガイダンスでキャリア支援室、学生相談室の利用について説明した。	実施済み。
	多くの学生は概ね研究環境に満足しているが（質問56、57）、一方で大学教育への要望は多様で少ない（質問72）。	まずは教務委員会と情報を共有する。	アンケート結果を共有した。新大学院後期課程設置準備に向けて参考にする。	教務委員とアンケート結果を共有した（実施済み）。	実施済み。

「平成30年度学生生活実態調査（第7回大学院生活実態調査）」のフィードバックにかかるフォローアップについて

部局名	調査結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実行の進捗状況等 (2020.3月HP公開内容)	対応計画実行の進捗状況等 (左記のフォローアップ) (2021.3月HP公開内容)	対応計画実行の進捗状況等 (左記のフォローアップ)
	事項（問題点や優れた点）	対応計画等			
先端技術科学教育部 物質生命システム工学専攻 (化学機能創生コース)	質問24の睡眠時間に関し、物質生命システム工学専攻は、6時間未満の学生が前期課程の全学生の40%弱と、母数の少ない環境創成工学専攻を除く3専攻中で最も比率が高くなっている。物質生命システム工学専攻のアルバイトの従事時間はむしろ少なく（質問20）、授業以外の研究時間が週40時間以上が40%強、60時間以上も10%強（質問50）と、長時間の研究時間が一因であることがうかがえる。	生活習慣について、指導教員から助言する。研究時間に関しては、研究の段取りなどについて、要領よく効率的にできるような工夫などを指導教員から学生に提示し、限られた時間内で効果的に研究が進められるように改善を図る。	指導教員の週あたりの指導時間が30分未満と短い学生の比率が高く、指導教員とのコミュニケーション不足を感じている学生の比率も高いというアンケート結果を教員間で共有した。指導教員においては、学生への指導時間の不足に心当たりのある場合は、指導時間の確保と指導内容の一層の充実を図るよう努めることを確認した。	指導教員においては、学生への指導時間の不足に心当たりのある場合は、引き続き指導時間の確保と指導内容の一層の充実を図るよう努めることを確認した。	現在はコロナ禍の状況であり、十分な実験時間をとることは難しい反面、文献等の調査や報告書の作成で研究活動に多大な時間を割かれていることに変わりはない。引き続き、指導教員は効率的な研究活動を指導していくことを確認した。
	物質生命システム工学専攻の前期課程の学生で、指導教員の週あたりの指導時間が30分未満と短い学生の比率が他コースに比べて高く（質問52）、指導教員とのコミュニケーション不足を感じている学生の比率も高い（質問55）	指導教員においては、学生への指導時間の不足に心当たりのある場合は、指導時間の確保と指導内容の一層の充実を図るよう努める。	物質生命システム工学専攻では、睡眠時間が6時間未満の学生の割合が多く、研究時間が長いことがその一因であることがアンケート結果からうかがえることを教員間で共有した。研究時間に関しては、研究の段取りなどについて、要領よく効率的にできるような工夫などを指導教員から学生に提示し、限られた時間内で効果的に研究が進められるように改善を図ることを確認した。	要領よく効率的に研究ができるような工夫などを指導教員から学生に提示するなど、引き続き限られた時間内で効果的に研究が進められるように改善を図ることを確認した。	現在はコロナ禍の状況であり、以前にも増して十分な研究時間、研究指導の時間がとれていないことが推察できる。指導教員はWeb会議室によるオンライン面談やメール連絡を活用することを確認した。
先端技術科学教育部 物質生命システム工学専攻 (生命テクノサイエンスコース)	物質生命システム工学専攻では、留学・語学研修に参加する学生が比較的多いが、海外での学会参加が少ない。	海外で学会発表ができるように指導するとともに、金銭面での支援制度を充実させる。	徳島大学教育研究助成奨学基金事業による博士後期課程学生への研究発表援助に積極的に応募するよう指導教員に呼び掛けた。	今年度は、新型コロナウイルスの影響により、学生、教員共に海外渡航ができない状況であったため、海外での学会参加報告はない。	今年度も、新型コロナウイルスの影響により、学生、教員共に海外渡航ができない状況であったため、海外での学会参加報告はない。
先端技術科学教育部 システム創生工学専攻 (電気電子創生工学コース)	国際会議において自身で研究発表した学生が増加している	-	-	-	-
	指導教員とのコミュニケーション時間、研究指導される時間が少ない学生が存在する。	アドバイザー教員制度を利用し、正確な実態を把握する。	大学院研究指導計画書作成に関してアドバイザー教員が助言する機会、およびポスター形式の中間発表を通して指導教員との相談等が少ないと思われる学生に適宜、相談方法等の助言を行っている。	今年度も引き続き、大学院研究指導計画書作成に関してアドバイザー教員が助言する機会、およびオンライン形式の中間発表を通して指導教員との相談等が少ないと思われる学生に適宜、相談方法等の助言を行っている。	今年度も引き続き、大学院研究指導計画書作成に関してアドバイザー教員が助言する機会、およびオンライン形式の中間発表を通して指導教員との相談等が少ないと思われる学生に適宜、相談方法等の助言を行っている。

「平成30年度学生生活実態調査（第7回大学院生活実態調査）」のフィードバックにかかるフォローアップについて

部局名	調査結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実行の進捗状況等 (2020.3月HP公開内容)	対応計画実行の進捗状況等 (左記のフォローアップ) (2021.3月HP公開内容)	対応計画実行の進捗状況等 (左記のフォローアップ)
	事項（問題点や優れた点）	対応計画等			
先端技術科学教育部 システム創生工学専攻 (知能情報システム工学 コース)	交通安全に関する周知徹底。違法薬物の使用者がいる。	システム創生工学専攻（知能情報システム工学コース）では新年度の各学年オリエンテーションにおいて、学生生活における注意事項を説明することで周知と徹底を行っている。	年度始におけるオリエンテーションでの周知であるため、直接的な進捗はまだない。現在は次年度のオリエンテーションで用いる予定の資料の修正を行っている。	年度始めのオリエンテーションにおいて各学年に対して学生生活における注意事項を説明した。	来年度のオリエンテーションでの説明に向けて資料の修正を検討している。
	学生の海外発表をはじめ、学会発表の機会が少ない。	システム創生工学専攻（知能情報システム工学コース）では学部から大学院の一貫した研究を行うため、学部3年次後期より研究室仮配属し、学部4年次や大学院1年次からの学会発表を行うことを推奨している。	各研究室で国内会議・国際会議の発表を学部生4年生～大学院生に勧めており、大学院生になってからすぐに国際会議で発表できるように学部4年次から論文を投稿する学生もいる。国内研究会についても学部生の発表もあり、発表の機会は増えてきているといえる。	新型コロナウイルスの影響で学生の学会発表の機会が減ったが、オンラインでの学会発表に参加するように勧めている。	継続的にオンライン学会への参加を勧めている。なお、国際会議への参加については、徳島大学工業会国際会議発表支援事業の対象を今後オンライン会議（参加費補助）にも適用できないかとの意見があった。
先端技術科学教育部 システム創生工学専攻 (光システム工学コース)	システム創生工学専攻では、質問33から、迷惑行為（いたづら電話、ストーカー、インターネットによる誹謗・中傷など）をうけた学生の割合が高いことがわかる。	SNSで個人情報や写真などを公開していることが原因の一つと推測されるため、インターネット上での情報公開に関する注意喚起を行う。	オリエンテーション等で、インターネット上での情報公開に関する注意喚起を行う予定である。	本年度は他のコース・系と同様の割合になったが、引き続き注意喚起を行う。	特に関係する事案等の報告は受けていないので、引き続き注意喚起を定期的に行う。
	システム創生工学専攻では、質問18および19から、奨学金を受給中であるがさらに希望をする学生、アルバイトをしている学生が多く、金銭的に困窮していることが見受けられる。	指導教員などを通じて、民間の奨学金等の募集情報の周知を徹底する。	指導教員や掲示物を通じて、各種奨学金等の募集情報の周知を行った。	アンケートでは他コース・系と同様の割合になっており、引き続き周知を行っていく。	定常的に、指導教員を通じたアナウンスを行ってもらうように周知を行っていく。